



ほたるっ子

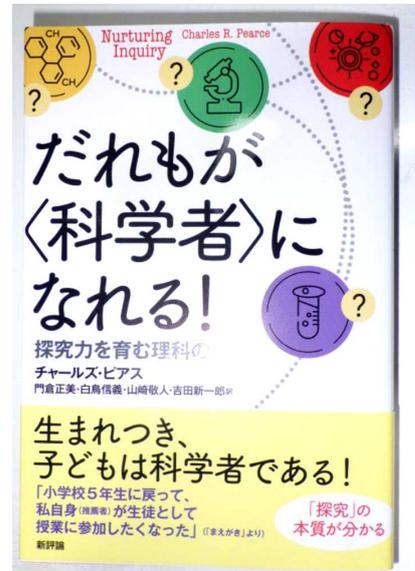
磐梯第一小学校
学校だより第20号
令和2年8月25日
文責：校長 酒井康雄

子どもの「問い」を大切に！

先週から『だれもが〈科学者〉になれる！』という本を読んでいます。「どうのこと？」と疑問をもちながら、読み進めると、科学者が行ってる探究の仕方を、生まれつき、子どもたちが行っているということです。「赤ちゃんの時から、探索し、触れ、切り離し、聞き、調べ、推測し、かわり、結びつけ、推定し、つくり、壊し、そして、結論を出しています。」と書かれています。言い換えれば、「**問いを立て、答えを探し求める**」という能力を、**生まれつき子どもがもっている**というのです。

逆に、大人の科学者は、生来の「問いを立て、答えを探し求める」段階から成長しない人たちとも書かれています。

今、「問いを立て、答えを探し求める」学び方が求められています。ぜひ、**子ども自身が答えを見いだしたくなる問いを大切に**したいものです。



トンボは飛ぶとき、足をどうしているの？

トンボは、こん虫です。ということは、脚が6本（前脚2本、中脚2本、後脚2本）あります。それぞれの脚をどのようにして飛んでいるか考えたことがありますか。

先週末、飛んでいるギンヤンマの写真を撮りました。よく見ると、前脚を目の後ろにたたんで飛んでいることが分かりました。



50年近くトンボを捕まえています。初めて知りました。何気ないところに「問い」をもち、答えが分かると楽しくなります。知識も広がります。

でも、前脚だけ目の後ろに…？また、新たな問いが生まれました。